

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号23 初期に築く本人との信頼関係
- 項目番号24 初期に築く家族との信頼関係
- 項目番号25 初期対応の見極めと支援
- 項目番号26 馴染みながらのサービス利用
- 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援
- 項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 項目番号60 お金の所持や使うことの支援
- 項目番号61 日常的な外出支援
- 項目番号62 普段行けない場所への外出支援
- 項目番号63 電話や手紙の支援
- 項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 敬愛シニアガーデン富岡

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 鈴木 洋子

評価完了日 平成19年 8 月 30日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	母体組織の理念に基づきグループホーム1Fとして地域密着型サービスとしての役割を目指す内容を盛り込んでいる。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者と職員は理念に基づき介護しており、毎日のミーティング等で目標、方針を話している。又、職員が掲げた理念もホーム内の壁に貼り取り組んでいる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域コーディネーター、広報委員会等の委員会を中心に地域の行事参加やホーム便りの発送など活発に取り組んでいる。又、運営推進委員会も定期的開催されている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所には「災害対策」への備えとしても重要視しており日頃より職員、利用者も気軽に挨拶を交わしている。庭に咲く花を見せて頂き写真を撮らせて頂く時もある。ボランティアにも来ていただいている。	限られた人数なので、もっと力を入れ多くの人と交流し近隣の輪を広げたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域コーディネーター、環境整備委員が中心になり地域の行事に参加し、気軽に声を掛けられる関係を作りつつある。隣組に加入し回覧板をまわしたり、近くのゲートボール場に利用者で見学に行き応援するなど交流に力を入れている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>保健センターに於いて認知症についての講演、各部落の集会所に於いての講演、相談等、また町村外からの講演依頼もあり積極的に取り組んでいる。また高校生の実習生の受け入れもしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者はカンファレンス、毎日のミーティングで職員に評価の意義や活かし方を示し全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上を目指している。また玄関先に表示して公開している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会は年6回11名から構成されている。毎回積極的な意見が多く出され、もっとも多く出される意見は「グループホームがどういった場所なのか、認知症がどういう病気なのかまだまだ理解されていない。」などが挙げられ地域貢献に積極的に取り組みサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は以前より行政との関連を強めようとしてきたが、今回、地域密着型サービスになり行政側の対応も以前より理解されてきたと実感される。また隣接されている居宅介護支援事業所の関係で窓口に行く機会も増え、役場から来る事も多く連携が強化されてきている。役場、保健センターなどの窓口パンフレットなども置かせていただいている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は積極的に研修に参加し理解を深め研修報告を職員に行っている。また実際には活用機会が少ないため支援体制が万全とは言えない。</p>		<p>事例として話し合った事はあるが管理者や主任、副主任の対応となっていた。今後は職員全員が活用できるようにしたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者、職員は積極的に研修に参加し理解を深めている。また事故、拘束委員会が中心になり虐待、拘束の有無をチェックしたり、研修委員会と連携し勉強会を実施している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前調査を行い時間をとって丁寧に説明している。特にターミナルケアや医療連携体制については詳しく説明し書面にて同意を得ている。退去時にも家族、利用者話し合い納得の行く方向で進めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理委員会を設けている。また利用者が意見を出しやすい環境、雰囲気作りに心がけ、1Fと2Fの職員を定期的に入れ替えたり、利用者が直接管理者と話をしたりボランティアの方とふれあえるよう努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、担当職員より利用者の現在の様子や利用者直筆の手紙や写真、金銭出納報告、領収書などを郵送している。また緊急を要する場合や家族との問い合わせには、その都度報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理委員会が玄関先にアンケート用紙とポストを設置し苦情等に対応している他、来所される家族等が気軽に話ができるような声掛けを心掛けている。出された意見や要望等は管理者、職員で話し合っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス、ミーティングなどを設け、また随時コミュニケーションを取っている。1F、2Fに副主任を置き管理者には直接言いつらい部分を補う様にしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表作成時には公休希望を取り入れ急な勤務変更が出ないようにしているが、急な休みに対応出来るよう人員は確保出来ている。また利用者が楽しく暮らせるようローテーションを組んでいる。緊急連絡網を作りすぐに活用出来るようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のレベルアップを目指し1Fと2Fの職員を定期的に交換しているが、デメリットも考慮し最小人数としている。また離職者が出ない様、職場での人間関係を良くするよう話し合いもされている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内外で行われている研修に積極的に参加している。また研修委員会が中心になり勉強会が行われている。勉強会は研修報告や職員からの要望が多かった勉強、資格試験に向けた勉強などが計画されている。勤務表も研修日程に合わせて作成されている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し頻繁に交流を重ねている。各地区で行われている研修会に参加したり他のグループホームを見学するなど行っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務中でも気分転換できる休憩室や喫煙場所を確保している。職員同士の人間関係を把握しローテーションに取り組んでいる。アンケートなども取っている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は本人の意向を重視し職場内で活かせるよう考慮している。管理者自身も利用者に関わり職員の業務や悩みを把握しようとしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>普段より利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。畑の作り方、漬物の作り方、さまざまな経験豊かな知識や知恵を頂いている。またそついった場面が出せるよう声掛けに配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の直筆の手紙、写真、様子や職員の思いなど月1回手紙にして出している。また面会時などに家族の考えを聞いたり電話を利用して利用者の変化を伝えたり家族との関係を密にしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の希望や状況を家族に伝え外出、外泊と一緒に過ごされる支援や誕生会、またその他の行事に家族の参加も勧めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪れる利用者の友人が、また来てくれるような雰囲気作りに気を配っている。また以前よりかかりつけていたマッサージを利用するなど生活習慣を尊重している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しないよう職員が調整役となり楽しく過ごすよう支援している。レクリエーションなどを通して利用者同士多く会話出来るよう、また利用者の気分や感情に注意を払い支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者、家族の意向を重視し、問題がなければ面会に行っている。病院に入院された場合は頻繁に面会に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。意思疎通が困難な方には表情などから推測したり家族から情報を得るようにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族、ケアマネジャーから聴き取るようにしている。また本人との日々の関わりの中で家族も知らないような情報を得ることもある。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを理解し出来ること、出来ないことを見極めその人全体の把握に努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全体で意見交換を行い、利用者担当職員がセンター方式でアセスメントを行い介護計画に役立てている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が情報を介護計画担当者に伝え、ご家族や本人の要望を取り入れつつ検討し現状に即した新たな計画を作っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に個別に記録し、いつでも全ての職員が確認出来る様にしている。その他に「ホーム長から職員へ」「申し送りノート」などを利用し職員間、職員と管理者の連携に注意を払っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らしていけるよう、ボランティア、消防、民生委員、警察、周辺施設への働きかけを行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じた訪問理容サービスを受けている。また隣のデイサービスとの交流を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者は地域包括センターに行くなど定期的な交流を図っている。管理者は地区の介護支援連絡協議会に加入し定期的に研修を行っている。		退所者を想定したケアマネジメントの方法を包括職員と共に研修を行いたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医の他、本人や家族が希望する病院の受診や通院を支援している。家族に代わって職員が同行することも出来る。また協力医の往診がある。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院が認知症専門医の指定を受けている為、指示や助言を受けている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者の希望、家族、医療機関と情報を交換し退院に向けて計画を立てている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>早くから終末期に向けて話し合いを持ち書面にて記録をしている。。協力医との連携も取れている。すでに「見取り」を行っており、これからのターミナルケアの礎になっている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の希望を尊重し医療機関とも連携を図り対応している。また職員も重度化に対応できるよう勉強会を開いている。すでに行った「見取り」から学んだ事を今後のターミナルケアに活かして行きたい。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所される場合、入居者の支援状況等を相手方に書面にて手渡しダメージを防ぐよう支援するとともに他施設へ入所後の問い合わせにも協力している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けや対応については日々の関わりの中で注意し、また研修や勉強会などで職員の意識向上を図っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせた声掛けをしている。食事メニューを考えたり、選んだり好物を言ってもらったり、今日はどう過ごすかなど声を掛け自己決定の支援をしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な流れは持っているが、あくまで利用者の気持ちを優先している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>洋服は自分で選び着てもらう。自己決定が出来ない利用者には職員と共に選んでいる。理美容は本人の望むようにしている。また近くの美容室でもホームに来てくれる。通信販売で化粧品を注文する利用者もいる。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>庭の畑の野菜を利用者と採って来たり利用者にメニューを選択してもらうなど出来る能力に合わせて支援している。食卓の準備や片付けも出来る範囲でやってもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の希望を優先している。食事制限のある利用者には医療と連携し、本人に合ったカロリーや水分を撮るよう支援している。食後、養命酒を飲まれる方、晩酌をされる方、タバコを吸われる方など自宅から継続して楽しめるよう支援している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間ごとにトイレに誘導するなど排泄パターンを把握しなるべくトイレでの排泄を実行している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の好きな時間帯に入れるようにしており、入浴順も一定ではない。季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯にしたり入浴温度や湯船に浸かる時間も体調に注意しながら希望に添えるようにしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中に活動を促し、また短時間の昼寝をするなど一人ひとりの状態に合わせて薬剤の安易な使用を控えるようにしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>趣味を活かせるような場面をセッティングしたり散歩や、外出、季節の行事など計画を立てて実行している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	自分でお金を持っている入居者も居る。買い物をした時は職員と共に行き自分で支払いをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	希望があれば職員と共にスーパーや公園などに行かれる。また外に出る機会を作り気分転換を図るようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	あらかじめ計画を立てて実行している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	手紙を書くよう支援し、写真も同封している。電話も常に掛けられるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	気軽に来てもらえる雰囲気作りを心掛けている。面会時間の制限もなく好きな時間に来ていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を中心に常に勉強会を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、外出を希望される利用者には一緒に行くよう安全に注意を払っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者と共に、夜はスタッフルームから各部屋を見回し、また定期的に巡視するなど24時間見守りをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況によって保管管理を行っている。生命に危険のある物は鍵の掛かる場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を中心にマニュアルを作成しヒヤリハットを記録し、集計、分析するなど取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。応急手当や蘇生術の研修を受けている。		数人の職員がまだ受けていない為、全員が行えるようにしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。また安全点検実施表を作成し定期的にホーム内をチェックしている。		地域住民の参加を呼びかけ夜間を想定した訓練も計画したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	自由な暮らしをしていただく為、家族と話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い記録すると共に顔色や様子に注意し異変があれば職員間、情報を共有し管理者に報告、重度になるのを防ぐようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成している。服薬時には本人に手渡し飲み込むのを確認している。薬が変更になった場合は申し送りノートに記録し職員全員がわかるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取、運動への声掛けなど薬に頼らないように取り組んでいる。また下剤を使用する場合は病院の処方に従って服用させている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて、うがいや歯磨きを促し介助している。就寝前は義歯を洗浄している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況を毎日介護記録表に記入している。一人ひとりの状態に合わせて、水分、塩分、カロリーの制限、また好き嫌い、柔らかさや食器、スプーン、フォークなど食べやすさを把握し食が進むよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会が中心となりマニュアルを作成し全職員で予防対策に努めている。職員、利用者共にインフルエンザの予防接種を受けている。下痢や腹痛など感染症を疑う症状が出たときは速やかに休暇を取り利用者への感染を防ぐようにしている。洗面所にはペーパータオルを使用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、食器、布巾等は毎日消毒している。食材も新鮮な物を使用するよう小まめに買い物に行っている。残っている食材の整理、調理器具、台所の清潔を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	固いイメージの建物を和らげる様、花壇や畑を作り、入り口にはホームを紹介するポスターを掲示するショウケースを設置している。玄関には花を飾り、足の弱い来客の為に座って靴が着脱できるよう椅子を置いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広場、廊下の飾りつけは利用者と共に作成し、飾りつけしている。玄関に飾ってある花も利用者に生けて頂いている。また季節の行事や行事食、歌など季節感が充分味わえるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には禁煙スペースを設け、廊下に椅子を置き一人で過ごされたり、広場のテーブルには季節の花を飾り仲の良い利用者同士、話に花を咲かせ笑い声が絶えないよう工夫している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族に馴染みの物があれば持って来る様お願いしている。家族の写真、こだわりのカレンダー、椅子、趣味の品々を持ち込んでいる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>一番気になるトイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない様心がけている。広場や居室には利用者の様子に注意し換気をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレ、浴室等に手擦りをつけている。歩行時つまずきがないよう注意し、歩行途中休めるよう椅子を配置するなど気を配っている。</p>		<p>手作りの踏み台で浴室の段差など障害を少なくしている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>常に職員全員で話し合い、一人ひとりの状態に合わせた環境整備を行っている。馴染みの物を利用したり、絵を使って表示している。また目の弱い方が夜間ポータブルトイレのある場所が分かる様、ポータブルトイレの上へ電気スタンドを設置するなど工夫をしている。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に花を植えたり、畑に野菜を植えたりするスペースが確保されている。天気の良い日は庭に椅子やテーブルを出し、お茶を楽しむ環境を作っている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者は職員の育成に積極的であり、職員も一人ひとりが利用者を理解し尊敬と慈しみを持ち接している。その為に常に知識を広めようと研修や勉強会に参加し自己研鑽を惜しまない。

また、利用者一人ひとりが、生き活きと穏やかに過ごせるよう利用者の自己決定を大切に、出来る力を維持して行けるよう、地域、家族と共にささえあい支援している。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 敬愛シニアガーデン富岡

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 鈴木 洋子

評価完了日 平成19年 8 月 30日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>母体組織の理念だけではなく、その人らしく、地域の中で生活が続けられるように『ゆっくり・ゆったり・その人らしく...。』の理念を掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づき、声かけ・見守り等、取り組んでいる。また、申し送りや介護記録によりサービスの提供を振り返っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には面会時等に説明したり、ホーム便りを活用している。地域の人々には、会合・運営推進委員会等にて説明したりしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩など出かけ、近隣の方々と挨拶を交わしたり、会話をしたりしている。ボランティアの方が定期的に来ている。</p>	<p>積極的に近隣の方々への声かけ等を行い、ホームとの関わりを多くもてるように努めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入したり、回覧板をまわしたりしている。また、近所にあるゲートボール場に出向き、交流に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	管理者は、地域の研修会等に積極的に出向 き、高齢者等に認知症への理解・ケアの啓発 に努めている。また、高校生の実習生の受け 入れにも積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンス・ミーティングでサービス評 価の意義や目的を全職員に伝え、理解し取り 組んでいる。また、掲示板に表示し閲覧出来 るように取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	幅広い立場の人がメンバーとして参加し、 ホームの取り組んでいる内容・改善点等メン バーより活発な意見が出されている。また、 自己評価に内容の説明、外部評価の結果も公 表し、理解していただいている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	市町村担当者に来る認知症の方の相談等、当 ホームへ相談依頼があったり、2週間に1度 の割合で市町村担当者が当ホームへ来られ たりと連携は取れている。役場の窓口には当 ホームのパンフレットを置いてもらってい る。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度・地域福祉権利擁護事業の研修 会に参加している。カンファレンスで事例を 取り上げ話し合いの場を持っている。		全職員が理解しているわけではなく、今後、 内部研修会を開き、権利擁護について理解に 努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待の研修会に参加したり、カンファレン ス・ミーティングで理解・防止に努めてい る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り、医療連携加算等について十分に説明している。不安・疑問な点を聞き、理解・納得を得ている。看取りについても、インフォームド・コンセントの書類を作成し、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・訴え等を出しやすい環境作りを心がけたり、言葉での表現が難しい方は行動・しぐさ等で思いを察する。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りにて様子を知らせている。また、ホーム便りと一緒に「ベストショット」として入居者の方に一人ひとりの写真と担当者のコメントを送っている。病院受診が必要な時は家族に電話をしたり、密に連絡を取っている。個人の出納帳を月ごとに領収書を添付して送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置したり、第三者評価委員会の窓口を設けたり、運営推進委員会にて意見等を表せる機会を設けたりし、苦情処理委員会で話し合う。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス等で職員の意見を聞く機会を設けている。また、日頃よりコミュニケーションを図るように努めている。1階・2階に副主任を設け、話しやすい環境を作っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>余裕を持った人員を確保しており、職員の急病や急な休み、入居者の方の身体の急変時など職員間の連絡網が出来ていて、連携が取れている。また、勤務希望も聞き入れている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の方の一人ひとりに担当を決め、馴染みの関係を築いている。職員の異動も入居者の方に配慮しながら半年に2名くらいずつ行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が積極的に研修会に参加している。その為、勤務表もそれに合わせて作成されている。内部研修も研修委員会が定期的に計画を立て、職員の質の向上に努めている。資格試験に向けた勉強会も行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の中の浜北地区にてグループホームの交換研修があり、良い所を持ち帰りケアに活かしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスや悩みを把握できるようアンケートを取っている。必要であれば個別に面接を行う。休憩室があり、職員同士コミュニケーションが取れる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向け、勉強会等を開き個々が向上心をもてるような職場環境にある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に生活する中で、入居者の方々が感じる思いに共感しながら過ごしています。入居者の方々から学ぶ事は多く、お互いが「持ちつ持たれつ」の関係を築いています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段の生活の様子を担当者が家族に写真と一緒に送っている。家族にも現状を把握してもらえるよう、面会・電話にて対応しているので協力関係が出来ている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回、家族の方への本人直筆の手紙を「ベストショット」にて送っており、一方通行の思いにならないよう努めている。字の書けない入居者の方には思いを職員が代筆している。また、面会に来て欲しい思いを伝える。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が面会に来たり、昔からのつながりを継続している。		面会は限られた入居者の方であり、もっと多くの入居者の皆さんや家族の方につながるの継続性を働きかけていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を職員が共有している。認知的に重症の方が多いため、意思疎通が難しい場合には職員が間に入り、良い人間関係を築いていけるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所に移られた方にも面会に行ったりしている。入院した場合は、お見舞いに頻回に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言語コミュニケーションが難しいため、表情や行動により本人の希望等、把握出来るよう努めている。家族からも情報を得て、本人らしい生活に近づけるよう努力している。本人との会話の中から家族も知らない情報も得る。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族から生活歴やライフスタイル等の情報を聞き取りし、把握し努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの生活リズムを知り、出来る事を見極め把握し、さらにのばしていくよう支援している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスにて、意見交換し本人の今の状態で考え、その人らしく生活していたたく介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現場の職員の意見を取り入れ、入居者の状態の変化、家族・本人の要望等にも応じて見直しを行い作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・排泄等身体状況、その日の生活や本人の言葉をそのまま記録に残している。個人別のカードックスで職員が情報を共有出来る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・消防等ホームとの行き来があり、他機関とも連携を取っており、意見交換する機会を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて訪問理容サービスを受けている。また、近隣事業所のデイサービスに出向き、交流を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに出向くなどし、定期的な交流を図っている。(現在の利用者の状況等)地区の介護支援専門員の連絡協議会に加入しており、近隣町村と連携を図っている。		現在、利用を必要としている入居者の方がないが、今後必要があれば利用していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人又は家族の希望により、入居以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力しながら通院介助等の支援をしている。また、囑託医の往診がある。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院が認知症専門医の指定を受けており、認知症についての指示や助言をもらっている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院によるリロケーションダメージを防ぐために、医師・家族と話し合いながら早期退院出来るよう努め、退院後も医療機関との連携を図り本人の健康管理に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、ホームが対応出来る本人に対しての支援について説明を行っている。終末期については、段階表示をし、現在の身体状況を説明し、状態の変化があるごとに家族の気持ちや本人の思いに注意を払い、支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の思いを大切にし、本人が安心して終末期を迎えられるよう、職員間でも情報を共有し、意思を確認しながら取り組んでいる。急変時は医療機関とも密に連携を図り対応している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他施設等に移られた場合、今までの本人の状態や支援状況等を担当者に説明するとともに情報提供書を渡し、馴染みの生活が継続出来るよう支援している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>守秘義務については書面で交わしており、プライバシーの保持(トイレ誘導時の声かけ等)についてはカンファレンス等で再確認している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の方に合わせ声かけ、意思表示が難しい方には表情・しぐさ等で読み取り、普段の生活の中で自己決定出来る場面を作っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に入居者一人ひとりの生活のペースに合わせた支援を心がけている。その為、職員は本人の気持ちを尊重して、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>職員がさりげなく声かけしたり、賞賛したりするなどその人らしさを支援している。また、行事等で化粧やおしゃれをしたり、着物を着たりしている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご飯をよそっていただいたり、配膳・下膳・食器洗いなどしていただいている。会話を楽しみながら楽しく食事出来るよう雰囲気作りも大切にしている。また、選択メニューや行事食の希望を取っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの好きなもの、嫌いなものを理解していて、その人に合わせた対応が出来るよう配慮している。行事の時等お酒やジュースの希望があれば状態に合わせて支援している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンに合わせ、プライバシーを侵害しないような誘導を心がけている。また、尿意のない入居者の方にも時間を見て誘導し、トイレで排泄出来るよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の方に入浴の希望を確認し、入っていただき、個々の好みのお湯の温度や入浴時間に配慮し、自己決定を大切にしながら入浴を楽しめるよう支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個別の疲れ具合や体調に合わせて昼寝等、休息が取れるよう支援している。また、安眠のため日中の活動を促したりしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>一人ひとりの力を見極め、その人の力が発揮出来るような環境作りをし、自信を持ってもらう。賞賛する言葉をかけたりして支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	お金はホームで管理しているが、本人の希望があれば買い物に行ったりし、お金を所持したり、使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気や本人の希望に応じて、外出やドライブ等に出かけている。歩けない方や意思疎通の難しい方にも、車椅子やジェスチャーにてその人にとって最良の方法をとり、配慮しながら支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	入居者の方の意見を取り入れながら計画を立て、職員の勤務も調整し支援している。家族の協力も得ている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	月1回のホーム便りと一緒に送っている『ベストショット』の中に本人直筆のメッセージを添えている。電話をしたいと訴えがあれば電話でのやり取りを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間の制限がなく、家族や知人の都合の良い時間帯に来ていただけるような配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスやミーティングで、拘束とは何か、スピーチロックはないか等話し合い実践している。また、内部研修にて勉強会も行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>エレベーター部分は自由に行き来出来るようにしてある。感知器や鈴を使い、出入りを把握している。ドアの開閉に伴うリスクを回避するため、一人ひとりの見守りをし、自由な暮らしを支援している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>記録等も入居者の方々と同じ空間で行いながら、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は定期的に巡視をし、入居者の方々の様子を確認している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者の方の状況に合わせながら、生命に危険が及ぶもの等、保管管理が必要なもの、そうでないものに分けている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ケアカンファレンスにて入居者の状況に応じて予想される事故や事故防止策を検討している。万が一、事故が発生した場合、速やかに事故報告書を作成し、今後の予防策について検討し、家族への説明と報告を行っている。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>事故防止委員会が中心となり、マニュアルを作成し全職員に周知徹底を図っている。</p>		<p>半数の職員は応急手当や蘇生法を研修で学んでいるが、今後、全職員が対応出来るように努めていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使用方法等の訓練を年2回行っている。近隣住民の方々も協力体制にある。また、月1回、ホームの安全点検も行っている。</p>		<p>近隣の住民にもホームの避難訓練に積極的に参加していただけるよう働きかけていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生き生きと自由な暮らしを送っていくためには、リスクが伴うことを十分に説明し、理解していただいている。家族との同意書も交わしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病歴を理解し、普段の状況を把握するため、毎日バイタルチェックを行っている。体調や表情の変化があれば、すぐに管理者に報告するとともに職員間で共有し、対応にあたっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が薬の内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡し、服用できたか確認している。薬の処方や用量が変更されたりした時は、申し送りノートに記録し、職員全員が共有する。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品等、採り入れたり、水分摂取を促したり、運動する機会を設けたりしている。下剤を使用する場合は、個々の状態に合わせた使用量、頻度となっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて、食後の歯磨き・うがいの声かけや、介助を行い、口腔内の清潔の保持に努めている。就寝前は義歯を洗浄している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日記録し、職員が情報を共有している。状態の変化にも介助の方法、食器の工夫等する事により、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設けており、感染症に対して細かく情報収集を行い、マニュアルを作成し、予防・実践している。冬季には加湿器や洗濯物を干す事によって乾燥を防いだりしている。入浴剤には六〇〇ハップを使用したり、食前の手洗いの施行。体調不良の職員は事前に休みを取る等し、対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、食器等の清潔・衛生を保つよう、職員で取り決め実行している。冷蔵庫の中も定期的にチェックを行い、残り物の鮮度・状態を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったりして、明るい雰囲気になる様、工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの季節の花を飾ったり、ゆず湯や菖蒲湯等、季節感のある料理等、採り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子や椅子を置き、一人で過ごしたり、少人数の入居者の方々と過ごせるセミプライベートスペースを作っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族の写真、自分で作ったぬいぐるみ、馴染 みの家具等、持ち込まれ本人が、居心地良 く過ごせるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	空気の入替え等、状況に合わせて行ってい る。温度調節は入居者一人ひとりの状態に 配慮しながら行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物が古く、廊下・トイレ・脱衣所に手す りは設置してあるが、トイレ・浴室に段差 があり、転倒の危険性が考えられ、十分 な見守りが必要である。		踏み台を段差の部分に置き、少しでも楽 に上がれるようにしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよう に工夫している	本人の状態に合わせ、環境整備委員会 が中心となり、話し合いの場をもってい る。トイレに目印をつけたりしている。		床のタイルの色が違う部分や金具が付 いていたりするので、今後、良い方法 を話し合い、検討していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活かし ている	庭に畑を作り、野菜を植え、成長を 楽しんだり、収穫して調理したりして 入居者の方が楽しみながら活動する 場を確保している。安全を考え畑と 駐車場を竹で区切っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほほ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほほ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほほ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほほ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほほ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほほ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほほ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほほ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく生活していただくために『その人らしく』の言葉を尊重しています。

中でも“らしく”は入居者一人ひとり違いがあり、生活歴や習慣・表情・しぐさ癖等から見えてくる本来の姿が『その人らしさ』であり、自分らしさを見失わない日常生活を送っていただく事を大切にしています。

そのため、職員も積極的に研修会に出向き、必要とされる専門的な知識・技術を習得し支援を行っています。